

委員からの主な発言

第4回流域検討会での意見・質問に対する回答について

1. 洪水の流下断面を確保するため井の口川の河口部を掘り下げるとのことであるが、海からの土砂流入があっても計画している河床高の維持は可能であるのか。

【河川管理者】河口部の河床が現在の高さで安定しているのは、岩が露出しているためであり、土砂のバランスによるものではないと考えられます。海からの土砂流入には、導流堤の延伸等に対応する計画であり、河口部の河床を掘り下げても河床高は維持できるものと考えています。

2. 多田川と井の口川とで、使用している降雨強度式が異なっているが、嶺南地方の河川整備計画における使用データ等の考え方を統一すべきである。

【河川管理者】嶺南地域の河川整備計画では、最新のデータに基づき諸検討を行っていますが、井の口川の場合は、昭和62年より実施している下流部の改修との整合をとるため、データや計算式等は当初の改修計画のものを使用しています。なお、最新のデータに基づく検証により、計画の妥当性の確認も行っています。

3. 洪水対策を河川改修だけで行うのではなく、住民の方に浸水危険箇所や避難経路等をお知らせするような対策も考えるべきである。

【河川管理者】洪水防御の全てを河川改修で対応することは経済的、時間的に困難です。このため、洪水に備えて市とも連携しながら避難経路の設定や水防体制の整備等のソフト対策も進めているところです。

4. 川に背を向けるのではなく、川に面と向かって生きる(川と共生する)ことが今後住民にとって非常に重要になる。河川管理者には、少しでも市民が川に親しめるような努力をお願いしたい。

【河川管理者】河川整備にあたっては、説明会や懇談会等を通じて、地域の方々の声をお聞きしながら、より地域に愛される川づくりを行っていきたいと考えています。

井の口川水系河川整備基本方針(案)、河川整備計画(案)について

1. 整備基本方針については、今後フィードバックできるように、正常流量(河川としての機能を果たすために必要な流量)の目標値を記載しておいた方がよいのではないか。

【河川管理者】上流に流況を調整する貯留施設もなく、また農業利水の取水実態や河川流況の把握もなされてないことから、正常流量の妥当性を判定することは難しいと思われませんが、整備基本方針への記載については、関係法令等を参考にして判断させていただきます。